

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

奈義町長 奥 正 親

| 市町村名 (市町村コード) | 奈義町 (33623) | | |
|-------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| 地域名 (地域内農業集落名) | 地域名 | 地域内農業集落名 | 協議の結果を取りまとめた年月日 |
| | 上町川・新吉野 | 新吉野・中土居・御所野集落 | 令和6年2月26日 (第 4 回) |
| | 滝本 | 向森藤・大上・野・近藤集落 | 令和6年2月25日 (第 4 回) |
| | 荒内西 | 荒内南・荒内北集落 | 令和6年2月21日 (第 3 回) |
| | 中島西 | 大坪・吉政・第一東・寺崎集落 | 令和6年2月18日 (第 2 回) |
| | 中島東 | 有元・山東集落 | 令和6年2月19日 (第 2 回) |
| | 柿 | 柿北・柿南集落 | 令和6年2月28日 (第 4 回) |
| | 久常 | 久常集落 | 令和6年2月18日 (第 3 回) |
| | 広岡東 | 広岡東集落 | 令和6年3月7日 (第 2 回) |
| | 広岡西 | 広岡西集落 | 令和6年3月11日 (第 3 回) |
| | 豊沢 | 豊沢集落 | 令和6年2月20日 (第 4 回) |
| | 成松 | 成松集落 | 令和6年2月10日 (第 2 回) |
| | 宮内 | 宮内集落 | 令和6年2月25日 (第 4 回) |
| | 西原 | 西原集落 | 令和6年2月11日 (第 2 回) |
| | 皆木 | 皆木集落 | 令和6年2月18日 (第 2 回) |
| | 行方・高円 | 行方集落、上高円・山口・高円野集落 | 令和6年2月10日 (第 1 回) |
| | 関本 | 関本集落 | 令和6年2月10日 (第 3 回) |
| | 小坂 | 小坂集落 | 令和6年3月10日 (第 2 回) |
| | 馬桑 | 馬桑集落 | 令和6年2月5日 (第 2 回) |

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

| 地域名 | 内 容 |
|---------|--|
| 上町川・新吉野 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後認定農業者等が引き受ける意向のある農地面積よりも、後継者不在の農地面積が多くなり、新たな受け手の確保が必要である。 ・当地区に営農組織がなく地区外の担い手の依存度が高く、担い手の意向を満たせない農地については後継者等を育成して対応する必要がある。 |
| 滝本 | <p>当地区では、5年位前までは70・80代の方が元気で、離農者の耕作地(約30ha)も積極的に預かり、地区内の農業が守られていた。その下の世代からは、農業を継ぐイメージのある人が、少なかったためか、農業に係る人はあまりいない状況である。現在高齢の方は引退するか、自己所有地の耕作のみ行う傾向になり、借地面積40haは大型農家と、令和2年設立の滝本営農組合で大半の管理を受け継いでいる状態である。</p> |
| 荒内西 | <p>当地区は、農業者の高齢化が進み、遊休農地の増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民などを交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約するとともに、地域で取り組める新たな作物や栽培方法を検討していく必要がある。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農業者:42人(うち50歳以下3人)、地域の担い手6人 主な作物:水稲、黒大豆、キャベツ</p> |
| 中島西 | <ul style="list-style-type: none"> ・当地区は、農業者の高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、担い手を確保しつつ地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。 ・高齢化や後継者不足以外にも、農業用施設や機械の費用負担が大きいといった課題がある。 |
| 中島東 | <p>当地区は、農業者の平均年齢70歳と高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、徹底的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民を交えた地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約するとともに、地域で取り組める作物として現在取り組んでいる飼料作物のよりよき栽培方法を検討していく必要がある。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農業者51人(内50歳以下1人)、営農組合1経営体 主な作物:水稲、飼料作物、黒大豆</p> |
| 柿 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後離農が進み、担い手に農地集中が進むと予想されるが、地区の担い手だけで借受ができなくなることが予想される。 ・農地所有者(地主)の農地管理意識が薄くなり、水路やため池等の農業施設の管理保全体制について、地区内外で非農家を含め検討する必要がある。 ・奈義町内の担い手の意見交換や作業の受委託を一元的にまとめる組織が必要となる。 |
| 久常 | <p>当地区は、農業者の高齢化が進み草刈り作業が困難になっています。担い手からの返却田が増え更に急傾斜の法面が増えている。草刈りの機械化を進めているが、高額で負担金もなく購入ができない。農業機械も10年以上が経過しており老朽化しているが、更新できず毎年高額な修理で運用している。</p> <p>【地域の基礎データ】 農業者27名(うち70歳以上17名、50歳以上10名)、営農組合1経営体</p> |
| 広岡東 | <p>営農組合・担い手を中心に集積・集約化し、管理者の確保はできているが、高齢化に伴いのぶぎょう生産活動などの継続支援が必要。</p> |
| 広岡西 | <p>当地区は、中山間地域集落で、協定参加圃場に参加している事業者は30名あり、急傾斜面の圃場が全体の75%をしめている。協定には参加していないが、水田以外の圃場及び畑で、野菜や、果樹を栽培している方もおられる。生産組合で営農計画書を役場に提出される名簿には、全体で約45名が登録されている。</p> |
| 豊沢 | <ul style="list-style-type: none"> ・農業者の高齢化、機械・資材等の高騰に伴い、年々、自営農業者が減少している現状 ・上記現状から、農地の維持・存続対応が課題であり、集落営農組織等、担い手で対応処しているのが現状 |

| | |
|-------|---|
| 成松 | <p>当地区は、農業者の平均年齢70歳と高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民などを交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約するとともに、地域で取り組める新たな作物や栽培方法を検討していく必要がある。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農業者:23人、団体経営体(法人・集落営農組織等)1経営体。 主な作物:水稲、黒大豆、白ネギ</p> |
| 宮内 | <p>当地区は、農業者の平均年齢72歳と高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民などを交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約するとともに、地域で取り組める新たな作物や栽培方法を検討していく必要がある。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農業者:25人(うち50歳代以下0人) 主な作物:水稲、大豆、飼料作物</p> |
| 西原 | <p>当地区の農業は、従来から水稲主体で個別経営の形態で行われていたが、18年前に集落営農法人を設立し、現在、地区の7割弱の農地が法人に集約されている。しかし山間地特有の急傾斜・狭隘不整形など不利な地形により、作業効率が劣悪なうえ、草刈り作業の負担、鳥獣被害の増大、用水路等の老朽化による維持管理の問題や、組合員の老齢化による労働力の確保等、問題が山積している。</p> |
| 皆木 | <ul style="list-style-type: none"> ・当地区は住民数も少ない上に高齢化が進んでいるため、限られた少数の人に農作業を依存している。このため、後継者の確保と、地域で取り組める新たな作物や栽培方法を検討していく必要がある。 ・鳥獣害の被害対策をしている。また、夏の高温障害により、作物に影響がでる。 |
| 行方・高円 | <p>当地区は、農業者の平均年齢70歳以上と高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民などを交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、分散する担い手の農地を集約するとともに、地域で取り組める新たな作物や栽培方法を検討していく必要がある。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農業者:行方24人(うち50歳代以下2人)高円34人(うち50歳代以下1人)、団体経営体(法人・集落営農組織等)3経営体、作業員等20人 主な作物:水稲、黒大豆、里芋</p> |
| 関本 | <p>当地区は、農業者9名の平均年齢64歳と高齢化が進み、遊休農地の更なる増加が懸念されることから、持続的に農地の利用を図りながら地域の活性化を進めるためには、新規就農者を確保・育成しつつ、地域住民などを交え地域全体で農地を利用していく仕組みの構築が喫緊の課題である。このため、中間管理機構を活用し分散する農地を集約するとともに、地域で取り組める効率的な栽培方法を検討していく必要がある。</p> <p>【地域の基礎的データ】 農業者:9人(うち50歳代以下2人)、団体経営体(法人1) 主な作物:水稲、大豆、</p> |
| 小坂 | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に急傾斜地が多く、農地の集積・集約化や草刈が困難である。南北に延びる谷間で日照時間が少ない上、水が冷たく多収穫が望めない。 ・高齢化は進むが後継者は退職後も帰郷せず空き家が増えている。 ・地域全体で担い手を育成していく仕組み作りの検討が必要である。 ・担い手が利用する農地の集約化が必要である。 |
| 馬桑 | <p>現在、高齢者が農業に携わっているが、年々年老いていき継続が難しくなっている。今後は後継者が担い手を受け入れる事が出来ないかが課題である。</p> |

(2) 地域における農業の将来の在り方

| 地域名 | 内 容 |
|---------|--|
| 上町川・新吉野 | <ul style="list-style-type: none"> ・米、を主作物としつつ、地域の特産物である黒大豆、里芋を段階的に有機栽培に切り替えつつ団地化を形成する。 ・地区は、認定農業者等に集約化を進めつつ、地区外からの希望する認定農業者等を受入れ、地区全体として農地保全の整備を進める |
| 滝本 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中核となる農業者を中心として、那岐山麓の気候風土や清流を生かした栽培方法を擁立し、低コストを図りながら、付加価値が見込まれる農産物を選別し、その生産性の向上を行う。 ・就農者の高齢化が進み、今後、離農者が見込まれるところ、中核となる認定農業者と営農組合との連携を密にして、地域状況を把握しながら、農地集約を図る。 |
| 荒内西 | <ul style="list-style-type: none"> ・水稻を主要作物とし段階的に有機農業に切り替え、地域の特産物である黒大豆の団地化を形成する。併せて飼料米.WCSの多収性の品種を導入し、又、加工用キャベツの団地化も併せて行い、農業を担う者を含めて栽培方法を確立する。 ・地域外から希望する認定農業者や認定新規就農者を受入れ、さらに農業を担う者を募り、地域全体で利用する仕組みの整備を進める。耕畜連携の取組を段階的に進めるため農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。また、畑作物の大豆、キャベツ等の共同作業等の取り組みにより地域コミュニティの活性化のため、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。 |
| 中島西 | 担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。また、スマート農業など働きやすい魅力的な手法を実践し若者の農業への参画を促す。 |
| 中島東 | <p>地域の特産物である水稻について有機農業の取組を段階的に進めるため農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。併せて新たな作物として飼料作物の団地化や加工・業務用野菜の黒豆の生産に向けた水田の畑地化を進める。</p> <p>また、地域コミュニティの活性化のため、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。</p> |
| 柿 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在は水稻中心の経営だが今後も米価は不確定なため、米以外の作物で契約栽培などの安定的な収入が確保できるものを考える必要がある。 ・畜産農家と連携して、稲ワラと堆肥交換を行うなど耕畜連携で土づくりを進め農産物の生産性を高める。また加工等の会社を誘致し、地元の人の雇用が生まれるようになったら良いと思う。 |
| 久常 | 水田は、畦で仕切られた田を少なくして作業効率のよい田へ改善している。 後継農業者の確保が困難となり各地区での集落から町全体の集約化へ移行するとも考えていく。 水稻のみでは管理できないところは、畑・果樹等へ転換して行くとも考えている。 |
| 広岡東 | 高齢化に伴う農業生産活動等の支援が必要となるため、営農組合、担い手を中心とした集積・集約化を進めて作業の効率化を図る。 |
| 広岡西 | 地域内は、認定農業者2名の他、新たに農業に本格的に取り組みたい若い方(40代,50代)が2名が、今年度から耕作面積を増やして、新たに圃場を預かって頂けることになった。新規就農業者への支援を充実して、将来への担い手への育成も考えて行きたいが、根本的な対策にはなっていない。 |
| 豊沢 | 労務改善、経営低コスト化の観点から、菜の花を緑肥として環境にやさしい農業(環境保全型農業)に取り組みむとともに、機械等の有効利用や、化学肥料・農薬の低減などスマート農業を推進する。 |
| 成松 | 地域の特産物である黒大豆について有機農業の取組を段階的に進めるため農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。また、地域コミュニティの活性化のため、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。 |
| 宮内 | 地域の特産物である水稻について有機農業の取組を段階的に進めるため農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。また、地域コミュニティの活性化のため、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。 |

| | |
|-------|--|
| 西原 | <ul style="list-style-type: none"> ・農地中間管理機構を活用して、営農組合に農地集積を進めて行くことを基本的な方針とする。 ・ドローン等によるスマート農業やデジタル技術の導入により、農作業の負担軽減や効率的な農業経営の実現を図り、若手農業者の組合への参画を目指し、徐々に世代交代を図っていく。 ・水稻、黒豆、WCS、飼料米等の生産を調整し年間作業の分散化を図る。 ・女性の労働力活用や、特有の発想力を生かし、黒豆等の付加価値を増大する方策を検討する。 ・狭隘で日照が悪いなど悪条件の田を林地化し、経営効率の改善を目指す。 |
| 皆木 | <p>農地、水路の整備を行い、後継者の負担を少しでもなくす。 地区産の米のブランド化を検討する。</p> |
| 行方・高円 | <p>地域の特産物である水稻について有機農業の取組を段階的に進めるため農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。また、地域コミュニティの活性化のため、地域内外から農地を利用する者を確保し、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。</p> |
| 関本 | <p>地域の産物である水稻・黒大豆について有機農業の取組を段階的に進めるため農地の集積・集約化を進め、さらに農作業の効率化を図るため、スマート農業の導入を進める。また、地域コミュニティの活性化と、担い手への農地の集約化に配慮しつつ、農業を担う者への農地の再分配を進めることができるよう必要な条件整備を実施し、地域と担い手が一体となって農地を利用していく体制の構築を図る。</p> |
| 小坂 | <ul style="list-style-type: none"> ・稲作を主要作物として、段階的に有機農業に切り替え、団地化を形成する。農業を担う者を含めて栽培方法を確立する。 ・認定農業者また、集落営農法人に集約化を進めつつ、地域外から希望する認定農業者や認定新規就農者を受入れ、さらに農業を担う者を募り、地域全体で利用する仕組みの整備を進める。 |
| 馬桑 | <p>水稻のほか地域にあった作物を探す、又、農業をしてくれる人を探す。</p> |

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

| | |
|----------------------------------|--------|
| 区域内の農用地等面積 | 919 ha |
| うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積 | 659 ha |
| (うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】 | - ha |

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域農用地区域内農地及び農用地利用集積等促進計画により貸借権を設定した農地を中心に、中山間地域等直接支払交付金の団地を基に区域を設定

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針

| 地域名 | 内 容 |
|---------|---|
| 上町川・新吉野 | 高齢化・後継者不足の進む中、担い手を中心に集積・集約化を図り、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員等と地域計画策定委員と調整し、農地中間管理機構を通じて進め、地域農業用地を守る。 |
| 滝本 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や営農組合を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、農地集約を進める。 |
| 荒内西 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 中島西 | ・営農組合及び認定農業者を中心に意欲ある担い手への集積、集約を図るため、農地中間管理機構を活用する。 ・今後は、高齢化等により離農する農業者から担い手への集積がスムーズに図られるように、農業委員・農地利用最適化推進委員などと連携しながら集積、集約を進める。 |
| 中島東 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 柿 | ・担い手を中心に集積・集約を進め、次期基盤整備を行うために農業委員と連携して団地面積の拡大に努める。 ・担い手同士で集積に当たり、水系単位での集積をすすめる。 |
| 久常 | 担い手を中心に集約・集積化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。 |
| 広岡東 | 現在の営農組合、担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。 |
| 広岡西 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 豊沢 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 成松 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 宮内 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 西原 | 農地中間管理機構、町、地区、生産組合、多面的機能支払活動組織、中山間地域等直接支払集落協定、営農組合等の各組織が、日頃より連携を密に保ち、農用地集約化等の情報交換に努める。 |
| 皆木 | 担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員と農地相談員と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。 |
| 行方・高円 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
| 関本 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者や新規就農者を中心に団地面積の拡大を進めるため、担い手への農地集積を進める。 |
| 小坂 | 担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積維持・拡大を農地利用最適化推進委員・農地相談員と協議・調整していく。 |

| | |
|----|---|
| 馬桑 | 農地中間管理機構を活用して、認定農業者を中心に団地面積の拡大を進めるとともに、担い手への農地集積を進める。 |
|----|---|

(2) 農地中間管理機構の活用方針

| 地域名 | 内 容 |
|---------|---|
| 上町川・新吉野 | 担い手の経営意向を踏まえ、農地中間管理機構に貸し付けを段階的に集約化を図る。その際農地利用最適化推進委員等及び地域計画策定委員と調整し、所有者の貸付意向に配慮する。 |
| 滝本 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、認定農業者や営農組合の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 荒内西 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 中島西 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 中島東 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 柿 | <ul style="list-style-type: none"> ・農地所有者の意向を踏まえて、水系単位の団地化を視野に入れながら中間管理機構を有効に活用する。 ・農地中間管理機構関連農地整備事業を活用して、農地中間管理機構に15年以上預けることで、農家負担ゼロで基盤整備、農業水利施設等の整備を行う。 |
| 久常 | 地域全体を農地中間管理機構に貸し付け、担い手への経営意向を踏まえ、段階的に集約する。その際農地利用最適化推進員及び現地相談員と調整し、所有者の貸付意向時期に配慮する。 |
| 広岡東 | 地域全体を農地中間管理機構に貸し付け、営農組合、担い手の経営意向を踏まえ、段階的に集約化する。その際農業委員と調整し、所有者の貸し付け移行時期に配慮する。 |
| 広岡西 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 豊沢 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 成松 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 宮内 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |
| 西原 | 農地の管理委託等の希望が出た場合、農地中間管理機構を経由して営農組合が受託する原則を守り通し、組合への農地集約を図る。 |
| 皆木 | 地域全体を農地中間管理機構に貸し付け、担い手への経営意向を踏まえ、段階的に集約化する。その際農地利用最適化推進委員及び現地相談委員と調整し、所有者の貸付意向時期に配慮する。 |
| 行方・高円 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け、担い手の経営意向を斟酌し、段階的に集約化を進める。 |

| | |
|----|---|
| 関本 | 担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員と農地相談員と調整し、農地中間管理機構を通じて進める。 |
| 小坂 | 段階的に集約化する。その際農地利用最適化推進委員及び現地相談員と調整し、所有者の貸付意向時期に配慮する。 |
| 馬桑 | 地域全体の農地を農地中間管理機構に貸し付け担い手の経営意向を踏まえ、段階的に集約化する。 |

(3) 基盤整備事業への取組方針

| 地域名 | 内 容 |
|---------|---|
| 上町川・新吉野 | 上町川地域の水田は、圃場整備一号地であり経年劣化により用排水路・暗渠排水等は機能低下しており、基盤整備計画策定の過程で必要な耕作条件改善に向けた取り組みを行う。 |
| 滝本 | 認定農業者と営農組合のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化、汎用化等のための基盤整備を段階的に実施していくことを要望していく。 |
| 荒内西 | 担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備をR10年度までに実施する。 |
| 中島西 | 担い手のニーズを踏まえ、効率的な農業経営を進めるため、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し推進する。国、県の補助金を活用しながら老朽化した用排水路の改修を進める。 |
| 中島東 | 担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を令和10年度までに実施する。 |
| 柿 | ・計画策定の過程で必要な耕作条件の改善に向けた調査研究を行う。 ・用水をパイプライン化できる基盤整備をするために、まずは農地の集積及び団地化を進め国の補助事業を活用する。また農地中間管理機構関連農地整備事業の活用を検討する。 |
| 久常 | 計画策定の過程で必要な耕作条件改善に向けた研究を行う。 |
| 広岡東 | 計画策定の過程で必要な耕作条件の改善に向けた研究を行う。 |
| 広岡西 | この地区特有の地形により急傾斜が多くて、草刈り作業には、かなり苦慮している。急傾斜用の草刈り機の導入（農道脇の草刈り作業も含む）、成長抑制剤の導入等も併用して、急傾斜圃場の法面の草刈り対策に力を注いでいくことが肝心である。 |
| 豊沢 | 担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を令和16年度までに実施する。 |
| 成松 | 担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を研究する。 |
| 宮内 | 担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連農地整備事業を活用し、農用地の大区画化・汎用化等のための基盤整備を令和15年度までに実施する。 |
| 西原 | 農道、畦道、用排水路、暗渠排水、鳥獣防護柵等々耐用年数を経過する箇所への取組みを、地区、生産組合、多面的機能支払活動組織、中山間地域等直接支払集落協定と連携を保ちつつ順次改良を重ねてゆく。 |
| 皆木 | 計画策定の過程で必要な耕作条件改善に向けた研究を行う。 |
| 行方・高円 | 計画策定の過程で必要な耕作条件改善に向けた研究を行う。 |
| 関本 | 地区内農地の圃場整備は完了しているものの急傾斜と蛇行した河川に面していることから歪な形と1圃場当たりの面積が小さいことから課題を残しているが、農地所有者等の負担の発生する基盤整備は困難。 |
| 小坂 | 計画策定の過程で必要な耕作条件改善に向けた研究を行う。 |

馬桑

今後必要とあらば担い手のニーズを踏まえ対応していく。

(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針

| 地域名 | 内 容 |
|---------|---|
| 上町川・新吉野 | 地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、町及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。 |
| 滝本 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。 |
| 荒内西 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。 |
| 中島西 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。農地の維持管理は、農家のみならず他業種との連携も視野に入れる必要がある。 |
| 中島東 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。 |
| 柿 | <ul style="list-style-type: none"> ・地区外(町外)の担い手の連携を進める。 ・集落営農組織として一般的な人件費が支払える経営体となることで、若い世代が農業に取り組める。 ・農産物の加工を行う業者との連携を進める。 |
| 久常 | 地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、町及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。 |
| 広岡東 | 多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、町及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。 |
| 広岡西 | JAとも連携して、地域内外からの多様な経営体制を募集、導入して、各種野菜も含む栽培技術や農機具のレンタルなどの支援や生産する農地の斡旋 |
| 豊沢 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。 |
| 成松 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。 |
| 宮内 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地をあっせんし、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。 |
| 西原 | 女性でも取り組みやすい農業形態の模索 |
| 皆木 | 地区内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市町村及びJAと連携し、相談からていちゃくまで切れ目なく取り組んでいく。 |
| 行方・高円 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体を募集し、栽培技術や農業用機械のレンタルなどの支援や生産する農地を斡旋し、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。 |

| | |
|----|--|
| 関本 | 経営体の意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市町村及びJAと連携し、多様な経営体の確保・育成のに取り組んでいく。 |
| 小坂 | 地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市町村及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。 |
| 馬桑 | 市町村やJAと連携し、地域内外から多様な経営体へ委託する。 |

(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

| 地域名 | 内 容 |
|---------|--|
| 上町川・新吉野 | ・作業効率(スマート化)が期待できる防除作業等は、JAへの委託を推進する。 ・栽培技術等の指導・研修、農業機械の安価な使用料又は作業受託の確立を求める。 |
| 滝本 | 地区内で農作業の効率化を図るため圃場法面等の草刈り作業は、地区内で設立した地区草刈会に委託するとともに、それ以外の防虫予防や雑草予防等の防除作業も効率的に委託するなど遊休農地の発生防止を図る。 |
| 荒内西 | 地域内で農作業の効率化を図るため草刈り作業は多面的機能事業体へ委託するとともに、それ以外の農地の保全作業並びに担い手が引き受けるまでの作業は、農地中間管理機構事業体に委託し、遊休農地の発生防止を図る。 |
| 中島西 | 地域内で農作業の効率化を図るた農薬散布作業は農業協同組合へ委託する。 |
| 中島東 | 地域内で農作業の効率化を図るため田植え、稲刈り作業は中島東営農組合事業体へ委託するとともに、それ以外の畦畔草刈りや耕運、農薬散布作業並びに担い手が引き受けるまでの作業は、中島東営農組合に委託し、遊休農地の発生防止を図る。 |
| 柿 | 水稻等苗づくり及び乾燥調製やヘリによる防除を委託する。 |
| 久常 | 作業の効率化が期待できる防除作業は、JAへの委託を進める。 |
| 広岡東 | 作業の効率化が期待できる防除作業・堆肥散布等は、JAへの委託を進める。 |
| 広岡西 | 作業の効率化が期待できる防除作業・堆肥散布等は、JAへの委託を進める。 |
| 豊沢 | |
| 成松 | 地域内で農作業の効率化を図るため農薬散布作業はJAの無人ヘリコプター散布へ委託するとともに、それ以外の畦草刈り・田植え・稲刈作業は地区内農家に委託し、遊休農地の発生防止を図る。 |
| 宮内 | 地域内で農作業の効率化を図るため耕起作業は農機具利用組合へ委託するとともに、それ以外の草刈り等の作業並びに担い手が引き受けるまでの作業は、森林組合当に委託し、遊休農地の発生防止を図る。 |
| 西原 | 有機堆肥の散布、農薬肥料の散布をはじめ、他の農業サービスを含め内容を取捨選択のうえ、作業委託を行い、労働力不足を補う。 |
| 皆木 | 作業の効率化が期待できる防除作業は、JAへの委託を進める。 |
| 行方・高円 | 農作業の効率化が期待できる防除作業は、JA等への委託を進める。 |
| 関本 | 地域内で農作業の効率化を図るため防除や草刈等の作業は、共同作業を推進し、遊休農地の発生防止を図る。 |
| 小坂 | 作業の効率化が期待できる防除作業は、経営体への委託を進める。 |
| 馬桑 | 地域内で農作業の効率化を図るため必要ならば協力し遊休農地の防止を図る。 |

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載)

| 項目 | 上町川・新吉野 | 滝本 | 荒内西 | 中島西 | 中島東 | 柿 |
|-------------|---------|----|-----|-----|-----|---|
| ①鳥獣被害防止対策 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| ②有機・減農薬・減肥料 | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ③スマート農業 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ④畑地化・輸出等 | | | | | ○ | |
| ⑤果樹等 | | | | | | |
| ⑥燃料・資源作物等 | | | | | | |
| ⑦保全・管理等 | ○ | ○ | | ○ | | |
| ⑧農業用施設 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| ⑨耕畜連携等 | | | | | ○ | |
| ⑩その他 | | | | | | |

| 項目 | 久常 | 広岡東 | 広岡西 | 豊沢 | 成松 | 宮内 | 西原 |
|-------------|----|-----|-----|----|----|----|----|
| ①鳥獣被害防止対策 | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| ②有機・減農薬・減肥料 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| ③スマート農業 | ○ | | | ○ | ○ | | ○ |
| ④畑地化・輸出等 | | | | | | | |
| ⑤果樹等 | ○ | | | | | | |
| ⑥燃料・資源作物等 | | | | | | | |
| ⑦保全・管理等 | | | ○ | ○ | | | ○ |
| ⑧農業用施設 | | | | | ○ | ○ | |
| ⑨耕畜連携等 | | | | | | | |
| ⑩その他 | | | | | | | |

| 項目 | 皆木 | 行方・高円 | 関本 | 小坂 | 馬桑 | 合計 |
|-------------|----|-------|----|----|----|----|
| ①鳥獣被害防止対策 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 16 |
| ②有機・減農薬・減肥料 | ○ | ○ | ○ | ○ | | 12 |
| ③スマート農業 | | | | | | 9 |
| ④畑地化・輸出等 | | | | | | 1 |
| ⑤果樹等 | | | | | | 1 |
| ⑥燃料・資源作物等 | | | | | | 0 |
| ⑦保全・管理等 | | ○ | | ○ | ○ | 9 |
| ⑧農業用施設 | ○ | ○ | ○ | | | 9 |
| ⑨耕畜連携等 | | | | | | 1 |
| ⑩その他 | | | | | | 0 |

【選択した項目の取組方針】

| 地域名 | 内 容 |
|---------|--|
| 上町川・新吉野 | <ul style="list-style-type: none"> ① 鳥獣被害の状況を把握(被害マップの作成)地区としての対策を推し進める。 ③ 労力の省力化を図るため、JAによる作業委託(水稻防除等)を推し進める。 ⑦ 地域住民による地域共有の資源である農業用水・農道・ため池等の保安全管理を継続して行う。 |
| 滝本 | <ul style="list-style-type: none"> ①地域による鳥獣被害対策の集落点検マップ(侵入防止柵や檻の設置状況、放置果樹や目撃・被害発生場所等)づくりや、連絡網の整備速や新たな捕獲人材を募集し、地域(猟友会)で育成していく。 ②滝本地区において、環境を配慮し、減農薬、減肥料に取り組んでいく。 ⑦刈り払い機による草刈作業では、定期的な安全指導を受けるなど、その安全意識の向上を図る。 |
| 荒内西 | <ul style="list-style-type: none"> ②管理協定を早急に締結し、地域の特産物である水稻を段階的に有機農業に切り替えていく。③スマート農業に取組農作業の効率化を図る。 ⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮の上、出荷・調製施設を整備し、農業用施設の集約化を進める。 |
| 中島西 | <ul style="list-style-type: none"> ①鳥獣被害対策体制整備支援事業を活用し対策を進めていく。 ②エコ認定の水稻等の栽培を推進する。 ③ドローンなどを活用したスマート農業を普及し、効率的かつ魅力ある農業経営を推進する。 ⑦中山間直接支払制度等の事業を活用し、農地や農道等の保安全管理のための取り組みを進めていく。 ⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮の上、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。 |
| 中島東 | <ul style="list-style-type: none"> ①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防止柵を設置するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。 ②地域特産物の稲作を対象に有機農業への切り替えを段階的に進めるため、管理協定の締結を進める。 ③耕作の省力化、若手農業者の育成のために、スマート農業への取り組みを進める。 ④地区内で黒豆(畑作物)が連続して作付けられている水田は、畑地化を進める。 ⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。 ⑨地区内で生産された飼料作物は、地域内の畜産農家に供給しつつ、家畜排せつ由来堆肥は地域内の生産者に供給する仕組みを構築する。 |
| 柿 | <ul style="list-style-type: none"> ①狩猟免許保有者による地域内の鹿・イノシシ対策に取り組んでいる。 ③スマート農業を進めるためにGPSを活用したAI解析で可変施肥マップを作成し、可変施肥機能の付いた農機具で効率的な農業に取り組む。また地域集積協力金を活用したドローンやラジコン草刈り機の導入を計画している。 ⑧中山間直払組織の支援で共同利用施設の建設に一応の目途がついた。 |
| 久常 | <ul style="list-style-type: none"> ①地域による鳥獣被害対策の集落点検マップ(侵入防止柵や檻の設置状況、放置果樹や目撃・被害発生場所等)づくりや、連絡網の整備や新たな捕獲人材を募集し、地域で育成していく。(池・河川の周辺では「ヌートリア」が多数生態している為、被害がでている) ③畦草刈りについては、最新の農業機械を導入して農業者の負担を低減する。 ⑤水稻に適さないところは、果樹等へ変換して行き最適な作物として行く。 |
| 広岡東 | <ul style="list-style-type: none"> ①鳥獣被害対策は、地域の取り組みだけではなく、町全体で侵入防止柵の設置や、捕獲人材の確保育成を行い効率化を図る。 ②町の特産品(米・むぎ等)の集団作付を行い、佑樹・減農薬で特長ある作物を拡売し、安心して購入して頂ける農業を目指す。 |
| 広岡西 | <ul style="list-style-type: none"> ①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防護柵を設置・管理するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。 ②有機センターの堆肥の活用を推進する。 ⑦中山間直接支払制度等の事業を活用し、農地や農道等の保安全管理のための取り組みを進めていく。 |
| 豊沢 | <ul style="list-style-type: none"> ⑦保安全管理面で最大のネックである農用地の草刈や、水田の水管理については、体力のある地区の消防団員他、集落営農組織の組合員に委託し、保安全管理を図る。 |

| | |
|-------|--|
| 成松 | <p>①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防止柵を設置するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。</p> <p>②地域特産物の〇〇を対象に有機農業への切り替えを段階的に進めるため、〇〇地区において管理協定の締結を進める。</p> <p>⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。</p> |
| 宮内 | <p>①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防止柵を設置するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。</p> <p>②地域特産物の水稲を対象に有機農業への切り替えを段階的に進めるため、宮内地区内外の耕作者において管理協定の締結を進める。</p> <p>⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮し、出荷・調製施設など農業用施設の集約化を進める。</p> |
| 西原 | <p>①鳥獣防護柵の補修、刷新・鳥獣捕獲免許の取得更新を継続し、被害防止に努める。</p> <p>③ドローンを活用して、農作業の負担軽減を目指す。パソコンを活用して、肥料農業散布等を時系列的に管理し、経費の節減、農作物の質量増大を目指す。</p> <p>⑦先祖から引き継いだ土地は地区全体で守り、後世に伝えていくという意識をもって、土地の保全に地域全体で取り組む。</p> |
| 皆木 | <p>①地域による鳥獣被害対策の集落点検マップ(侵入防止柵や檻の設置状況、放置果樹や目撃・被害発生場所等)づくりや、連絡網の整備や新たな捕獲人材を募集し、地域で育成していく。</p> <p>②皆木地区において、管理協定を早急に締結し、地域の特産物である米を段階的に有機農業に切り替えていく。</p> <p>⑧担い手の営農や農業を担う者の利用状況などを考慮の上、出荷・調製施設を整備し、農業用施設の集約化を進める。</p> |
| 行方・高円 | <p>①イノシシや鹿の被害が拡大しないよう防止柵を設置するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。</p> <p>②地域特産物の黒大豆・里芋を対象に有機農業への切り替えを進める。</p> <p>⑦地区内においての畦草刈の管理協定を締結し、保全管理に努める。</p> <p>⑧ミライスセンターを利用し、出荷調整など集約化を進める。</p> |
| 関本 | <p>①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防止柵の管理と定期的見回りを行うとともに情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。</p> <p>②堆肥やセルカの散布を推進するとともに生育調査による肥培管理の適正化を進める。</p> <p>⑧担い手の農作業の機械化の推進による作業の効率化を進める。</p> |
| 小坂 | <p>①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防護柵を設置・管理するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。併せて地域内外から捕獲人材の確保・育成を進める。</p> <p>②有機センターの堆肥の活用を推進する。</p> <p>⑦中山間直接支払制度等の事業を活用し、農地や農道等の保全管理のための取り組みを進めていく。</p> |
| 馬桑 | <p>①イノシシやシカの被害が拡大しないよう防止柵を設置するとともに、目撃情報や被害情報があった場合には速やかに対応できる体制を構築する。</p> <p>⑦水田の保全管理等については地区全員で協力し合う。</p> |